

2004年(平成16年)8月31日 火曜日

森・里・海のつながり紹介

京大フィールド研が冊子出版

京都大学フィールド科学教育研究センターは、京大総合大学博物館(京都市左京区)で開催した春季企画展の展示や今後の研究を紹介した冊子『森と里と海のつながり 京大フィールド研の挑戦』をこのほど出版した。

人と自然の共存原理

京大は全国にある九つの施設を統合し、昨年に同センターを発足。森か

ら里、河川、海までのつながりの中で人と自然の共存原理を基礎にした森里海連環学を創設した。その取り組みを紹介するため、六月から八月二十九日まで企画展を開催した。冊子は企画展を解説する図録を兼ねるだけでなく、センターの各施設の研究内容や今後の展開を紹介している。同実験所助教授の益田玲爾さんが責任編集を務めた。森から海までのつながりを意識した研究テーマ、わかりやすい文章で書くことを編集方針とし、二十四人が執筆した。同実験所からは山下洋所長と益田さんが、山に木を植えて森林を作ることが豊かな海を作ることや、上野正博助手が舞鶴湾での漁業と下水道整備の関係、甲斐嘉晃助手が魚類標本の役割などを述べた。来年京大のゼミで使う。B5判、百五十一頁。出版社は大伸社。二千円。一般にも販売している。書店かインターネットのショッピングサイト「amazon」から注文できる。(TEL 62・5512、実験所)

勝(2分55秒91)、二位オーストラリア(3分0秒60)、三位ナイジェリア(3分0秒90)で、予選順位を上回る健闘だった。



研究をまとめた冊子と責任編集を務めた水産実験所の益田さん